

会議結果報告書

令和5年6月16日

会議の名称	令和5年度 第1回在宅医療・介護連携代表者会議及び認知症施策推進会議
開催日時	令和5年6月9日（月）13時30分～15時00分
開催場所	志木市役所大 会議室3-3
出席委員	岩崎委員、正岡委員、瀧委員、崎田委員、西委員、本多委員、木野委員、奥山委員、藤島委員、長内委員、吉田委員、田中委員、渋谷委員、立花委員、多田委員、丸山委員、土屋委員、生方委員、辻委員、宮川委員 (計20人)
欠席委員	相原委員、宮本委員、田代委員 (計3人)
議題	議事 (1) 在宅医療・介護連携推進事業及び認知症施策推進事業について これまでの取組と令和5年度の計画について (2) 在宅医療・介護連携推進事業ワーキンググループ編成と活動について
結果	審議内容の記録のとおり (傍聴者0人)
事務局	福祉部中村部長、長寿応援課渋谷課長、斉藤主査、増田主任、水谷主事補
審議内容の記録（審議経過、結論等）	
<p><第1部></p> <p>1 開会</p> <p>2 岩崎会長あいさつ</p> <p>5月よりコロナウイルス感染症が5類となり、社会的には徐々に従来の活動が戻りつつある。医療・介護連携の推進に向けて、皆さんとできることや必要なことを検討し、取り組んでいきたい。認知症施策についても、認知症疾患医療センターや初期集中支援チームを実施している和光病院とも連携をしながらご本人の早期発見や早期対応、地域の見守り体制の強化など進めていければと考えている。</p> <p>福祉部長あいさつ</p> <p>高齢化施策については、議会でも複数質問が出て注目されている内容である。高齢化がますます進む中、それぞれの立場からご意見をいただき志木市の高齢者施策につなげてもらいたい。</p> <p>3 自己紹介</p>	

各委員、事務局より自己紹介。

4 議事

(1) 在宅医療・介護連携推進事業及び認知症施策推進事業について

これまでの取組と令和5年度の計画について

事務局) 令和5年4月1日現在、志木市の高齢化率が下がったが認定率はあがっている。85歳以上の高齢者の約半数は介護サービスを利用し医療や介護、生活支援等包括的なサービス提供がより必要となるため、更なる医療介護連携が求められる。特に、日常の療養支援、入退院支援、急変時の対応、看取りの4つの場면을意識した取組を推進していく必要があるため、令和4年度は4つの場面に共通するACP(アドバンス・ケア・プランニング)普及啓発と医療・介護関係者研修の2つのワーキングを構成し、事業を行った。令和5年度も引き続きワーキングを主体とした取組を行っていく。他に朝霞地区4市、地域包括ケア支援室と協働により、令和4年度は4つの場面に応じケアマネジャー向けの研修会やアンケート調査を行い、令和5年度はシンポジウムなどを予定している。さらに、志木市高齢者実態調査結果の報告、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)について市民だけでなくケアマネジャーの認知度が低いことや医療・介護の連携が取りにくいなどの声から医療介護連携の推進が必要である旨の説明を行った。

認知症施策推進事業については、令和4年度の各事業の実績を報告し、令和5年度は9月のアルツハイマー月間で「認知症にやさしいまちづくりフェア」を開催し、認知症SOS模擬訓練の合同実施、認知症カフェや相談会を実施するなど認知症についての普及啓発を行う予定である。

(2) 在宅医療・介護連携推進事業ワーキンググループ編成と活動について

事務局) 令和5年度もACP普及啓発グループ、医療・介護関係者研修グループの2つに分かれ具体的な取組を進めていく。2つのグループにおける目指す姿や現状、目標を達成するための手段の例について説明した。

<ワーキンググループ>

- ① ACP普及啓発ワーキンググループ/相原委員、西委員、藤島委員、吉田委員、田中委員、立花委員、渋谷委員、多田委員、土屋委員、辻委員 計10人。
- ② 医療・介護関係者研修ワーキンググループ/岩崎委員、宮本委員、正岡委員、田代委員、瀧委員、崎田委員、本多委員、木野委員、奥山委員、丸山委員、生方委員 計11人。

なお、菅野病院(認知症疾患医療センター)及び朝霞保健所は広域連携での出席目的のため、ワーキンググループは除外とした。

6 その他

各団体等からの周知事項

埼玉県歯科衛生士会より訪問歯科診療(朝霞地区在宅歯科医療推進窓口など)の案内があった。

〈次回以降日程〉

- ・ 第2回会議

令和5年10月

- ・ 第3回会議

令和5年2月頃開催予定

〈第2部〉

- ① ACPの普及啓発ワーキンググループ、②医療・介護関係者研修ワーキンググループに分かれて今後の具体的な取組について協議を行った。

以上